

香取市災害復興会議 第2回会議概要

日 時 平成23年9月5日(月) 午後1時30分から3時15分

場 所 香取市役所 4階 庁議室

出席者 14人(代理含む) 欠席3人

| | | | | |
|------|-------|----------|------|-------|
| 岸井隆幸 | 前田正博 | 堀井啓(代理) | 浅野文男 | 柏木幹雄 |
| 高岡宏基 | 城之内義雄 | 亀谷秀夫(代理) | 飯田教久 | 松井健一 |
| 花澤 栄 | 尾形忠志 | 根本由美子 | 鈴木恵子 | (敬称略) |

- 1 開会
- 2 あいさつ
○香取市災害復興会議 議長 岸井隆幸
○香取市長 宇井成一
- 3 議事
(1) 市民アンケート結果について(報告)
(2) 香取市災害復興計画(素案)について
(3) その他
- 4 その他

【会議での意見等】

- 防災行政無線の個別受信機について、停電も同時に起こり、電池を交換していないため、聞きづらく、雑音が入ってしまっている。電池を買いに行っても、電池がなかった。折角の防災行政無線なので、電池を定期的に交換することなど、お知らせしてほしい。
- 今回の被害地域は、特定の地域に限られている。利根川沿いの地域に被害が大きく、他の地域の被害は少なかった。やはり液状化の問題がかかわってくる。アンケート結果からも、香取市の被害がどの地域に多く、なぜこういう被害が出たのかが、ある程度わかった。
- 国道356号は、昔、利根川の堤防だった。大水が出て、堤防が切れ、今の356号の南側に池ができていた。利根川の河床を掘り、その砂を佐原中学校のあたりに埋めていった。素人考えで、液状化は、地質気密化すればよいということで、地中に木材を埋めれば、地質が気密化し、液状化が防げるという案があった。科学的にそういう判断があるのか。地域で被害が全然違う。玉造、諏訪近辺はほとんど影響がない。地盤が硬いのか。
- 利根川を浚渫して埋め立てた場所で、今回、家屋や道路等で被害が多かった気がする。
- 利根川は、もともとは東京湾に注いでいたものを、江戸時代に付け替えた。その後、浅間山の噴火もあり、洪水の被害が増大した。利根川の流下能力を確保するため、もう一本東京湾につながる放水路が計画されたこともあるが、実現性が低いので、利根川を

掘削して川の断面積を確保する事業が優先して行われた。掘った土砂は、地域の要望に応じて土地造成に活用した。今回そのような場所で液状化が発生しているが、液状化がクローズアップされるようになったのは、昭和39年の新潟地震の頃で、その以前には皆さん意識されてなかったと思う。

- 今回のように酷い被害はなかったが、以前にも庭などで液状化が起きたところがある。
- 液状化が起きる場所は、大体わかっている。きめ細かな砂が堆積し、地下水がある場所が、地震で揺らされると、水圧が高くなり、土を構成する粒子が浮いた状態になって水のようにになってしまう。

今回、東京都内でも液状化が起きた。利根川沿いで歴史的に砂が堆積している場所や東京湾の近辺で海面を埋め立てたところは、今回液状化が起きている。

砂の中に杭を打ち込み、揺さぶって水を抜いたり、コンクリートで固めたり、いろいろな工法で地盤改良ができるが、深いところだと相当お金もかかるため、改良してあるところと改良してないところがあり、今回の東京湾沿いの埋め立て地でも、改良ができていないところは液状化が起き、差が明確に出た。

最近はいろいろな先生方が、限定的な改良で液状化が防げるのではないかと、被害を小さくできるのではないかという研究がされている。今回の被害は、揺れた期間が長いため、液状化の準備が整い、第2波の振動で液状化が起きたと言われている。

○議長

被災の状況は、歴史的な経過もあり、地域で差があるのも事実だと思う。今回はそれを踏まえた復興計画を考えなければいけない。

- 個々の事業は、ほとんど網羅していると思うし、特に地域住民の自助努力、自己責任、助け合いという部分が計画されており、内容的にはよいが、あとは実行だと思う。問題は、財源をどうするか、執行体制をどうするかである。できれば分野ごとの事業費や事業計画、財源確保の見通しを計画できたら、この計画に対する市民の信頼、インパクトがあると思う。

ハード面の被災施設の復旧は当然として、ソフト面はこれまで他の計画で言われたことがなく、必ずしも実行できるとは言い難い。検証し進行管理に当たってほしい。

- 計画を見て、これが成功できたらすばらしい香取市ができると思う。

私の場合は農業をしており、液状化した田にトラクターで入ってみたが、トラクターが埋もれてしまい、それを持ち上げるため大きいトラクターを送ったが、ワイヤーが切れてしまった。結局、ユンボで持ち上げた。こういう液状化を市はどう考えているのか。

○議長

大半の事業が、事業主体は市となっているが、市ということでもいいのか。

- 田んぼが沼のようになってしまうのは、暗渠をやらなくては駄目である。暗渠をして、下に水が溜まらないようにしないと、どうにもならない。
この計画は、29年までの計画だが、そうではなく、長期的に考え、庁舎は山に持っていかないと駄目。台風で道路が寸断され、家もわからないときはヘリコプターが必要。緊急時は、やはり消防と病院が必要。消防にはヘリポートを造り、市でヘリコプターを買い、住民を守らないといけない。
 - この市庁舎は液状化被害がなく、周りが地盤沈下しているが、これはなぜか。パイルを打つなど、基礎をよくやったのか。
駅前空きビルがあるが、あそこは地盤が悪く、潜函工法というコンクリートの枠を造り浮かべる工法で、その上にビルが建ったが、今回の地震でも壊れなかった。
 - 香取市の被害は、家屋、農地、道路、すべて液状化が関係している。家屋は、液状化の地区でも、杭を基礎に何本も打ち込んだ家は被害がないという話を聞いた。液状化に対する工法など、液状化対策は難しいものと感じた。
この素案は、被害の状況を的確に把握し、それで復興の基本目標を立てており、大変よいと思ったが、それを裏づけるお金がかかると思う。このお金の工面が7年間続くのか心配である。県や国から支援を引き出さなければ、市の予算だけではできないのではないか。
 - 基本理念は、基本目標を機能させ、キャッチフレーズ的な考え方でということ、「香取の再生、新しいまちづくりを目指して」とすれば、うまくまとまると思う。
- 議長
- 基本理念は、政治的なメッセージみたいなところがあるので、皆様から、キーワードもらい、それを市長が政治姿勢としてメッセージを短く整理するのが妥当ではないか。
- みんなで議論しても、一つの文章にするというのは容易でないので、入れてほしい気持ちを紙に書き、市長さんに決めてもらってはと思う。
- 分野別計画の中で、住宅再建支援の項目で、被災者が住宅を再建するにあたり、金融機関の貸し付けを受ける場合の利子を助成とあるが、金額の上限や期間など具体的にはどのようなものか。
主な事業で、中小企業者の事業資金を融資という項目があり、実施主体が国、県、市となっているが、香取市独自の復興資金に関する利子補給、助成などの案はあるのか。
 - 香取市は、4つの地区が一つの市になったが、今回の震災対策が、地域ごとにどうするというメッセージがわからないので、何か工夫が必要。佐原、小見川は、液状化が中心で、栗源は放射能汚染で農作物が被害を被っている。被害の状況・質が違うので、起きた問題を地域ごとに示し、それに対する計画として打ち出す方法もある。

今後を見通し、香取市ならではの取り組み、特色あることを打ち出す必要があり、その一つに小野川沿いの建造物関係がある。再生可能エネルギーを活用して、メガソーラーの導入など夢のようなものがあるので、将来に向けた新しい挑戦的な取り組みも入れた方がよい。

- 農協としては、放射能汚染のことが一番気にかかる。水稻は、放射性物質は検出されなかったのに、米の流通の引き合いが多い。銚田の方で少し検出されただけで、茨城産米の流通が減り、値下がりをしている。簡便な測定器で勝手に測定して情報発信されることもあるので、測定は行政のみが実施し、風評被害につながらないようにしてほしい。行政が保証書を添付するようなこともしてもらいたい。
- 液状化の関係で、水田が大分被災し、1割以上が作れない状態である。パイプラインは直せばいいが、液状化は、広範囲で大きな予算もかかり、厳しい状態なので、来年の農業が不安がないように、早急に原因も調べて対応してもらいたい。
- (4)の観光振興で、香取市は歴史的、文化的な資源が多くある。行政がよく勉強し、観光事業をやってもらいたい。
企業、大型店舗の誘致を推進について、若者が香取市に住まないのは、奥さん方のよい職場がないためである。近くに奥さん方の職場をつくれば、地元で消費する。大企業ではなくは、小さい職場でいいから、つくってもらいたい。
- 小野川下流の沿いの住民は、親戚へ行ったり、避難所へ行ったりで少なくなっている。水道は仮設水道で復旧されているが、下水は復旧していない。下水が復旧すれば、帰ってくると思う。家に帰りたいという希望が多いので、市で何とかお願いしたい。
小野川の工事や国交省河川事務所で堤防工事をよろしくお願いしたい。

○議長

実行性が、非常に大事である。計画だけ作っても実行できなければ意味がないので、具体的に、財源や執行体制を検討し、無理のないプランとしなくてはいけない。

我々も責任があるので、極力情報を提供してもらいたい。

被災の状況は地域によって違うため、地域に応じた復興があるべきという意見もあり、その辺をわかりやすく、被災の状況を計画に入れてもらいたい。

単にこの数年間だけでなく、長期的な、戦略的な視点が要するという指摘があり、その長期的な戦略として、香取市ならではのチャレンジ、これまで抱えていた雇用の問題などを復興を通じて、解決できれば、努力すべきという意見があった。単に復旧にとどまらず、その先をにらんだ、チャレンジングな戦略もぜひ考えていきたい。

農業の問題、観光の問題、ソフトの問題、それぞれ意見があったが、言い足りないことは、事務局に意見提出してください。